

核と戦争のない世界へと向かう行動

-日韓・青空共同行動への連帯メッセージ

日本の帝国主義勢力は、東アジア侵略によって数千万人の命を奪い、結果的に第2次世界大戦の泥沼に陥りました。70年前の1945年8月、広島と長崎に人類最初の原子爆弾が落とされて戦争は終わりました。

しかし貪欲な資本家と帝国主義者たちが犯した戦争で、罪のない人々が命を失いました。日本でも韓国でも被爆者と2世3世は、今も苦痛の生活を送っています。人類が数万年の間、培ってきた文明を後退させた反動の歴史でした。

今、帝国主義勢力は、第2次世界大戦の反省を通じて平和を作るどころか、相変わらず戦争を準備しています。今日人類が保有している核兵器は、70年前とは比べものになりません。その上、数多くの原子力発電所は核兵器を製造するプルトニウムを生産するだけでなく、それ自体で危険な凶器となっています。

4年前、東日本大震災による福島原発の爆発がこのことを証明しました。もし戦争が勃発してミサイルが原発に落とされる状況が発生するならば、より一層想像もできない災難が起きるでしょう。

世界最大の核兵器保有国であるアメリカとロシアは、核戦争を仮想したシナリオを稼働させています。多くの国が核兵器開発に熱を上げています。原発を稼働中の国々は全て、核兵器開発についての誘惑を払い除けられずにいます。

地球的規模の戦争が勃発する時、核兵器とは非対称な通常兵器では対応できないという不安感のためです。各国のこのような核(兵器)政策は、平和よりも戦争の可能性を念頭に置いた戦略といえます。最悪の場合、人類を絶滅させることができる結果をもたらすでしょう。

日本の安倍政権と極右主義者は、日本の平和憲法9条を破壊する戦争法を通過させようとしています。このところの戦争法に反対する日本の労働者、民衆の闘争は、1960~70年代安保闘争以来、最高潮に達しています。韓国の労働者も、この闘争を積極的に支持します。安倍政権は、福島原発の爆発という大災害にもかかわらず、川内原発の再稼働や上関原発の建設を試みています。

韓国でも数多くの闘争を通じて、寿命の尽きた古里(コリ)原発1号機の廃炉決定を引き出しました。しかし韓国政府は、今後も12期の原発の追加建設計画を立てています。韓国と日本、さらには東アジア地域の原発反対運動を積極的に繰り広げなければならないでしょう。

2013年から始まった「韓日青空共同行動」も今年で3年目を迎えます。特に韓国は、解放70年であると同時に、分断70年となる年です。朝鮮半島を囲む東北アジアの軍事的緊張が高まり、かつ東アジア地域に原発が密集している状況なので、青空共同行動の意味はより大きいといえます。韓国では、AWC韓国委員会、青年緑ネットワーク、青年左派、アルバイト労組などが集まって、文化祭と「2015青空に向かう行進」を行います。核のない世界、戦争のない世界に向かう力強い行進を繰り広げましょう。

1985年から、この広島平和公園内から始まった「反戦、反核、反原発、被爆者解放のための集会」である「青空式典」と「戦争と被爆を許さない写真展」に支持と連帯を送ります。

2015年8月6日

AWC韓国委員会代表
許榮九(ホ・ヨング)